



<http://cms.miyazaki-c.ed.jp/4216/htdocs>

人権を考える集会

12月8日(木)に2回目の「人権を考える集会」を行いました。串間市役所や法務局、人権擁護委員の方が来られ、人権の花と感謝状を贈呈していただきました。その時に行われた人権教室の内容を紹介します。

リスペクト アザース

平成24年度 第32回全国中学生人権作文コンテスト 法務大臣賞

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のディケア(保育園)、プレスクール(幼稚園)、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした「respect others」という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴは、ロサンゼルス以南にあり、メキシコの国境から1時間程度だったので、土地柄のせいか、クラスには、肌の色や髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人々がいた。僕が物心ついたときには、周囲のいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前の状況だったので、自分がまわりの人と違っていることも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたりとか、誰かがいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起ってくる。そんなとき、先生たちは必ず「リスペクト アザース」と言い、当事者に反省を促した。「リスペクト」の意味もはっきり分からない保育園や幼稚園のころから、事あるごとに繰り返したき込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと、「意地悪をしないで、みんな仲良くしなさい」とか「いじめはダメ」という、そのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。

その後、僕は日本の小学校に通い始めた。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きなカルチャーショックも受けた。一番驚いたことは、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に気を遣っているように見えたことである。他人よりうまくいかないから目立たないようにしているのではなく、他人より



うまくできても目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、そのノリがわからず、今まで通り、自分がうまくできたことを周りの人にも伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて、何とも悲しい気持ちになった。また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っている、「冗談」と言っとうやむやにしていることにも驚いた。僕がよく分からない世界だった。僕がたたき込まれていた「リスペクト アザース」の世界はここにはなかった。(中略)

僕は、日本でもっと「リスペクト アザース」が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考えるうえでの基本だと思う。人権尊重の社会をつかっていくのは、僕たち一人一人の考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違っていることがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していることなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。



「他者を尊重できない人間は、自分自身の良さも大切にできない。」とよく言われます。自分の考えや意見と違うからという理由で、友達を排斥したり敬遠したりしては、豊かな人間関係を築くことはできませんし、自分自身を高めることにもつながりません。「リスペクト アザース」の考え方は、すべての世代にわたって浸透していかなければならないものです。どうぞこの機会に、ご家庭で話題にいただき、考えていただければと思います。

11月22日（火）の5校時、学校保健委員会講話が行われました。小学5、6年生と保護者も交え、講演を聴きました。

串間警察署生活安全係を講師に招き、「ネット環境でのトラブル・心身の影響について」と題し講話をしていただきました。今や、スマートフォンや携帯電話は、日常生活に欠くことのできないものになりました。高校生では、ほとんどの生徒が個人用のスマートフォンや携帯電話を持ち、中学生でも、個人用のスマートフォンや携帯電話は持たないものの、親のものを使ってメールや通話をしたことがあるようです。



講話の中から、ネットトラブルを起こさないために以下のような項目が挙げられると思います。

- ① 周囲に迷惑をかけない。
- ② 決められたルールは、絶対に守る。
- ③ 困った時は、すぐに相談する。
- ④ 自分の身は、自分で守る。

また、使い方によっては、重大な人身事故を起こしたり、人権侵害を犯したり、性被害にあったりすることにもなります。家庭でしっかり話し合い、マナーとルールを守ったスマートフォンや携帯電話の使い方を身に付けましょう。

年末年始を迎えるにあたり気を付けたい携帯電話やインターネットの使い方

言うまでもなく、近年のネット社会の発展は、私たちの生活を便利で快適なものにしております。しかし、こうしたネット社会の影の側面が、大きな社会問題となっているのも事実です。中学生もネット犯罪やトラブルの被害者や加害者になっている現実も、身近で発生しております。

そこで、冬休みを迎えるにあたり、保護者の皆様がスマートフォンや携帯電話、インターネットの使い方について、子どもさんに十分指導していただき、ネット犯罪やトラブルの被害者や加害者にならないよう気を付けていただければと思います。

ゆく年、くる年

平成28年が暮れてゆき、平成29年が幕を開けます。冬休み中に、今年をしっかりと振り返り、元旦から1年間の年間目標を立てましょう。除夜の鐘を聞き、元旦を向かえるとき気持ちを大切にしていきましょう。

竹は、節があるからこそ真っ直ぐにしなやかに伸びることができるのです。節がなければ、すぐに折れ、曲がってしまうことでしょう。この節とは何か、人生にたとえれば、1年1年の区切りであり、めぐる季節の移り変わりであり、1日1日の夜明けや夕暮れと言っていていいでしょう。

皆さんは、夜明け前の静寂を経験されたことがあると思います。1日の中で、夜明け前が一番気温が下がり、シンとした深い静寂が訪れます。これこそ、地球そのものが日々繰り返す節といてもいいのではないのでしょうか。だからこそ、新たな気持ちでその日を迎えられるのでしょうか。

本城中生全員が、純粹に、真っ直ぐに目標に向かって成長する平成29年にしてほしいと思います。

